

# 大学図書館問題研究会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124

## 大図研京都支部第2回例会のご案内

### テーマ「大学図書館ホームページについて考える」

現在、ホームページをもつ大学図書館は全体の2/3を超え、OPACを公開する図書館も4割ぐらいだとされています。このような数字を見るまでもなく、現在の図書館サービスはインターネットを抜きには語れないほどになっています。日頃のレファレンス業務や参考調査でWWWを使い、さらにホームページ作成を担当されている方もおおぜいいらっしゃるのではないのでしょうか？。そのような日常業務の中で、わからないこと、疑問などを感じられる方も案外多いのではないのでしょうか。そこで3月の大図研例会では以下のように、日頃、図書館のホームページに対して感じておられることを交流する場にしたいと考えました。報告者はもちろん、その分野のエキスパートではありませんが、意見交換のための問題提起になれば、と考えております。ぜひ、ご参加ください。

とき：2000年 3月11日（土）14:00～17:00

会場：立命館大学国際平和ミュージアム204号

報告：井上 雅人（立命館大学総合情報センター）

会費：無料



#### 【申込方法】

はがき、電話、FAX又はメールで

申込み先：京都学園大学図書館

大館和郎 宛

京都府亀岡市曾我部町南条大谷 1-1

TEL：0771-29-2292

FAX：0771-29-22991-1

E-mail：odate@kyotogakuen.ac.jp

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 目次 | 第2回例会のご案内……………1頁          |
|    | 図書の新着書架を設置するための用件と課題…2頁   |
|    | 近畿4支部新春合同例会に参加して…3頁       |
|    | 大図研・京都支部ホームページが誕生しました!…4頁 |
|    | 第6回支部委員会報告……………5頁         |
|    | 数珠つなぎ（第47回）……………6頁        |

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで  
編集気付（kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp）田北まで

# 図書の新着書架を設置するための要件と課題



大 綱 浩 一

京都大学附属図書館では昨年、図書の新着書架を廃止しました。廃止に至った経緯としては、図書館経費の削減に伴う莫大な新着図書配架業務に対する労働力の削減が主な原因です。労働力の削減を業務の合理化により吸収できずにサービスを削減してしまった一例と言えるかもしれません。再度、新着書架を設けるためには極力手間のかからない方策を講じる必要があります。

また近頃、いかにして資料を配置すべきか、というようなことに関心を持っています。資料の配置に直接かかわる部署に居ることもあり、蔵書を構築し、並べていること、すなわち資料の配置それ自身が利用者へのサービスであると考えているためです。また、最近では情報をデザインするというような考え方もなされてきています。そこには「見せる」という意識が感じられます。図書館においてはその商品である蔵書を「見せる」ことが必要なのではないでしょうか。

というわけで、今回は新着書架を設置するための要件と課題についてについてのまとめを試みました。筆者としましてはみなさまからの経験の共有があればうれしく思います。

なんとと言っても、まず最初に新着書架に配架し、次に通常書架に移動しなければなりません。これには避け難い、そして作業的にも大きな手間がかかります。

新着書架といえども別置になる以上は、目録を見た時にその図書が別置されていること、そしてどこに別置されているか、がわからなければなりません。そのため図書を移動する際には配置場所を付け替える必要があります。

また図書が新着書架へ戻っていくためには、現物を見てもひとめで新着書架へ戻すべき図書であることがわかる必要があります。たとえばラベルを貼るなど、新着図書である印をつけることが考えられます。それでいてかつ通常書架へ移動する際には消せる・外せる印でなければなりません。

通常書架への移動、利用者によるブラウジングの便を考えると、図書は配架の時系列順に並んでいることが望ましいと考えられます。図書が配架の時系列順で並んでいると、左から順に通常書架に移せ、また右から順に新着の図書をブラウジングできるからです。

あえて別置までして新着図書であることを強調するからには、目立つ場所に置かなければ当然、意味がありません。しかるべき場所を確保する必要があります。

新着書架は、新しく配架された図書を利用者にお知らせするサービスです。従って、しかるべき期間、たとえば2週間なり1ヶ月なり、継続して新着書架に配架される必要があります。そのため、それだけの期間に配架が予測される図書を配架するに十分な大きさの書架を準備する必要があります。

新着書架に置かれている間の図書の運用方針を決めておく必要があります。新着図書に対する利用要求は高く、利用回転率を高めるために一人あたりの利用期間を短かく設定することが望ましいとされています。

以上、管理的な都合ばかりを並べてしまいましたが、理想論となることなく、できるだけ早い時期に再実現可能な方法を考えたいと思います。

(おおつな こういち 京都大学附属図書館)

## 近畿4支部新春合同例会に参加して（感想文）

### ●大綱浩一（京都大学附属図書館）

今回は図書館と同じく、情報流通システムの1つである出版流通業界の話を、その当事者である南浦氏から伺うことができるということで、当初から楽しみにしていた。

実際、出版流通業界の経営実態についてお話しいただいた内容は、事例を交えたたいへん生々しいものでありました。社会システムの変革期は、すでに予測ではなく、現実のものとなっていることを認めさせられました。

図書館を取りまく環境がすでに変革期に入っている以上、当然のごとく図書館もすでに変革期のただ中にあるはずです。

よって今取っている日々の行動が、いずれ来るであろう安定期の図書館の在り様を決定づけるものであることを肝に銘じたいと思います。

特に気になった話題に、出版流通システムにおけるコンビニ等の台頭がありました。台頭してきたこと、その流通規模の大きさもさることながら、その要因である地域密着型の経営という点に最も引きつけられました。出版流通に限らず、物流全般に渡ってコンビニは大きな可能性を秘めているように感じられます。

今、社会システムが求めているものは、標準化されたサービス窓口なのではないでしょうか。コンビニは物流という点において非常に効率に優れています。流通において小売りの役割を果たしてきたサブシステムは、物流効率以外の面において活路を見いだすしかないのかも知れません。

### ●川崎 千加（羽衣学園短期大学図書館）

もっと、図書館に手厳しいお話がでるかと思っていましたが、出版、書店、取次などの関係が見えてくるお話で、大変面白く聞かせていただいた。

大学や短大にいる人々は、「危機だ。危機だ」といいながら、とかく思い切ったことはしたがない。たとえ、柔軟な発想を持って提案しても、それが実際に生かされることも少ない。「生き残り」をかけた企画といいながら、どこでもやっていることしかしない経営陣に、辟易している大学人は少なくないのではないだろうか。

この出版業界大不況下で店舗を拡大し、お茶を飲みながら新刊本を読めるという、「ラフな図書館」を創ったジュンク堂さんに、大学人が学ぶべきことはたくさんあるかもしれない。

南浦氏の話聞いていて、今大学に一番欠けているのは、発想のユニークさと、それを実現してしまう決断力かもしれないと思った。ただ、とても売り上げに繋がらないのでは？と思う経営は、今でも不思議なのだが・・・。

厳しい「出版業界の話」は、ほとんど「図書館あるいは大学の話」と思いながら聞いていた。出版物の媒体の変化、流通の変化が図書館にもたらす影響は電子図書館構想と絡んで図書館界をにぎわしてきた。

それは出版業界がネットワーク化で「人」が見えなくなったことや、オンデマンド出版への対応などに傾斜しようとしている状況に似ていると感じた。そして、廃業した出版社に老舗の名が並ぶのを見ると、大学もよそ事ではないと思う。

図書館文化ひいては高等教育の未発達が、今の予算や人員削減に繋がっていて、これが日本の出版文化をも衰退させている一要素になっているのだろうかと思えてくる。

教育も文化もかなぐり捨てて、「経済性」のみを優先する日本は、一体どこへ行ってしまおうだろうか・・・。

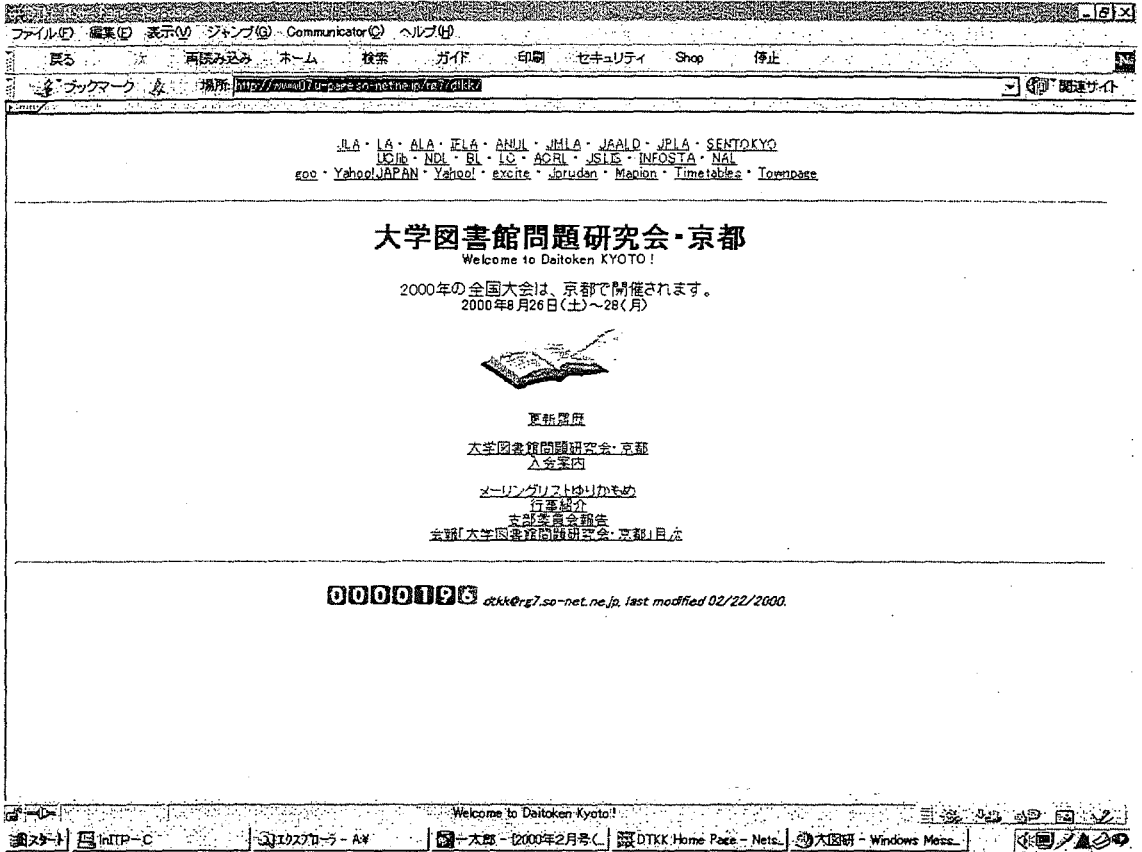
私たちは図書館と出版物、文化と教育について、もっと関心を寄せてみていく必要があるのではと、帰り道に一人ぼんやりと思っていた。

以上

\*と書いていたら、昨日老舗の寝々堂書店が倒産したそうですね

# 大図研・京都支部のホームページが誕生しました！

URL : <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/>



ホ-ム-ページ-に-て-す!!

メーリングリストのアドレス(アドレスが変わりました!)

yurikamome@mma.so-net.ne.jp

未加入のみぞん 此を機会にメーリングリストにも加入をお望みします。

### 会費納入のお願い

1999年度会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。  
会費についての問い合わせは財政担当支部委員の中嶋スエ子さん、又は  
最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

## 第6回京都支部委員会報告

2000年 2月 8日 (火) 同志社大学クローバーハウス (午後 7時～ 9時)  
出席：篠原、中嶋、呑海、田北、大館、大綱 (オブザーバー)

## 【報告事項】

1. 会員情報 ・ 92名 (前回) → 94名 (現在)  
そのほか購読会員 1名増えたが、他支部在籍のため京都支部会員にカウントしない。
2. 財政情報 ・ 前回と同じ

## 【審議事項】

## 1. 今年度の活動について

## (1) 近畿4支部合同例会の総括

- ①参加者：40名 懇親会参加者：24名  
・参加者のうち非会員が11名で公共図書館員や書店関係者などを含む。
- ②会計 ・ 会場費が高かついたため、予備費を使うことが承認された。

|                                       |   |         |
|---------------------------------------|---|---------|
| 会費 500円 × 40 (人)                      | = | 20,000円 |
| 寄付金                                   |   | 1,000円  |
| 予備費                                   |   | 7,563円  |
| 京都支部負担金                               |   | 20,000円 |
| 他3支部負担金                               |   | 13,000円 |
| (大阪支部 5,000円 兵庫支部 5,000円 奈良支部 3,000円) |   |         |
| -----                                 |   |         |
| 収入合計                                  |   | 61,563円 |
|                                       |   |         |
| 会議室使用料 (13:00 - 17:00)                |   | 24,000円 |
| マイク                                   |   | 2,600円  |
| コピー                                   |   | 800円    |
| 奉仕料                                   |   | 2,660円  |
| 消費税                                   |   | 1,503円  |
| 講師謝礼                                  |   | 30,000円 |
| -----                                 |   |         |
| 支出合計                                  |   | 61,563円 |



- ③会場：50名収容可能だが40名の参加者でスペースちょうどよかった。

## (2) 第2回例会

- ・テーマ 大学図書館ホームページを考える
- ・日時：3月11日 (土) 14:00 - 17:00
- ・会場：立命館大学平和ミュージアム
- ・講師：井上雅人氏 (立命館大学)

## (3) 第3回例会

- ・テーマ：ネットワーク管理
- ・講師：未定

## 2. 支部報について

## (1) 2月号について

合同例会感想/第2回例会案内/数珠つなぎ (京都学園大-高橋さん)

## (2) 3月号について

インターネット活用術 3 (京都大-大綱さん)/数珠つなぎ (京都大-那須さん)

## (3) 4月号について

数珠つなぎ (ジュンク堂-南浦さん)

## 3. 支部報復刻版の発行について

- ・夏の全国大会までに完成させる。

## 4. 京都支部ホームページについて

- ・大図研京都支部の紹介文が出来上がりしだい、広報宣伝する。
- ・内容の更新については、特に必要と認めたもの以外は支部委員会に諮ることはせず、担当者自身の判断で行う。
- ・全国大会についての情報提供コーナーを設ける。

## 5. 次回支部委員会予定 3月7日 (火)

次回大会実行委員会 3月11日 (土)

12:00 ~ 13:30 (立命館大学平和ミュージアム)

好評の連載コーナー!!

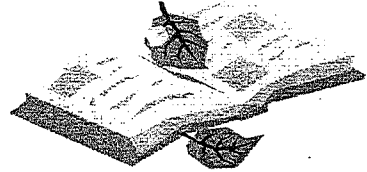
京都学園大学国際交流課

たかはし よしみ

大図研京都数珠つなぎ 第47回

高橋好美 さん

## リーディングマテリアル



資料という意味で、最近考えていることを書いてみようと思う。

オーストラリアの大学を訪れた際、構内の書店で教科書などの外に、コピーを綴っただけの Reading material というものを見つけた。日本の大学ではあまり見かけないように思われたため、1冊購入して帰国した。

それは授業で取り上げるテキストの無造作なコピーを簡易製本したものである。日本の書店関係者に聞いてみたところ、著作権の関係でそのような Reading material を日本ですることは困難であるとのことであった。確かに、その material がオーストラリアの著作権法の但し書きに従って作成されている旨の記載が表題下に書かれている。

"This compilation of student reading has been made in accordance with the provisions of Part VB of the Copyright Act for the teaching purposes."

試みにオーストラリアの著作権法にあたると、その Part VB に「教育機関またその他の機関による著作物等の複製」についての規定がみられる。法律の解釈は専門家でないので出来ないが、なぜこの種の Reading material が日本の大学には存在しないのであろうかという疑問が湧いてきた。

我が国の著作権法第35条には、「学校その他の教育機関において教育を担当する者は、その授業の過程における使用に供することを目的とする場合には、必要と認められる限度において、公表された著作物を複製することができる。」と規定されている。この条文を読む限り、複製を許容されるのは授業を行う教員である。海外の大学の Reading material の様に教育機関が組織的に受講者向けに複製し、その費用を徴収することは我が国では不可能のように思われる。

学生時代の経験では、講義に於いて参照された文献を図書館で読んでみようと思った時は、必ずその資料に限って、帯出中であったり（…遅かった！）、教員の研究室に配置されていたり（運が悪いなー、あきらめるか！）、書庫の奥深くに秘匿されていたものである。（これってマーフィーの法則？）そうこうしている間に知的好奇心やなげなしの向学心は萎えてしまうのであった。

しかし、効率よく、且つ効果的に学習して行くためには Reading material の様な教材が有用であり、且つ必要であるように思われる。Reading material があれば、学生は必要なテキストを必要な箇所だけ読むことが出来るのではないだろうか？学生がひとつの科目に割ける時間は限られており、その限られた時間のなかで効率的に勉強することが出来る手段として Reading material のような素材は重要なのではないであろうか？そのような意味で Reading material の様なものが日本の大学にもあればと思っている。

（注一筆者は、男性です。編集子）